

# プラゴミ削減へ意識高める

## くにびき エコクラブ 出雲・高浜小で環境講座

松江市を拠点に活動する環境ボランティア団体「くにびきエコクラブ」(北垣幸久会長、会員39人)が25日、出雲市里方町の市立高浜小学校で環境講座「親子エコチャレンジ」を開いた。同校の4年生48人と保護者や地域住民らが、地球温暖化防止やプラスチックごみの削減へ意識を高めた。

同クラブは2009年にくにびき学園に在学する学校や公民館、イベントの仲間で作成。県内のトなどで、環境創作劇



くにびきエコクラブによる環境劇「海亀の涙」の上演=25日、出雲市立高浜小学校



ごみの分別に挑戦する児童たち

の上演やエコ講座を開設するなどして、地球の環境改善を訴えている。昨年度は県知事表彰の「県民いきいき活動奨励賞」を受賞した。当日は2部構成で、1部では同クラブ名誉会長の山口信夫さん創作・演出の環境劇「海亀の涙」を上演した。劇は、プラスチックごみによる環境汚染が広がっていることを知り、削減を目指して取り組むスーパーマーケットを経営する家族の物語。

劇中では、ゴミ袋やプラスチック容器があふれたバリ島の海や、プラキャップなどを誤飲し死んでしまったアホウドリの死骸、ストローが鼻近くに刺さったウミガメの映像が写し出され、児童らは目を覆った。

2部では、ごみの分別体験やエコクイズなどがあり、身近でできる環境に優しい生活について考えた。最後に同クラブの北垣会長が、「たくさん勉強して、将来みなさんが環境改善のエコリーダーになってください」と児童らに伝えた。

児童の村上美月さんは「プラごみを減らすうとたくさんの方が活動しているけど、まだまだ多く、私たちもできることからやっていきたい」、梶谷蔵ノ介君は「プラごみのことや分別について家で教えようと思う。カメにストローが刺さるとは思ってもいなくて、そうならないようにしていきたい」と話した。

児童たちは、総合的な学習で「環境」をテーマに取り組んでおり、この日講座で学んだことを学習にいかしていきたいとのこと。